

令和7年度 前期 学校自己評価のお知らせ

保護者の皆様へ

これは、前期に行った「学校自己評価」の結果です。学校自己評価とは、教師自身が、学校教育目標の達成状況や教育活動の実施状況を評価するものです。その際、評価の客観性を増すために、「児童アンケート」や「保護者アンケート」の結果も参考にします。ただし、質問の言葉は教師、児童、保護者それぞれの立場によって異なります。教師には、目指す児童の姿のための支援や取組が実践できたかを問い、児童には、自分の姿を問い、保護者には、日常の児童の様子や児童との会話等から感じている姿を問うています。これらの評価の結果をふまえて、学校改善に向けた今後の教育活動を進めていきます。

お時間があるときにお読みいただき、本校の教育活動に対して御理解いただきますとともに、今後も御協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

糸島市立前原小学校
校長 重富 紀子

まごころさん

がんばるさん



えがおさん

糸島市立前原小学校

実施期間：令和7年6月30日（月）～7月4日（金）

【評価方法】
4段階 4:よくできている 3:だいたいできている 2:できていないときの方が多い 1:できていない

【本校の教育目標】 まごころで学び、えがおでふれあい、ねばりづよくがんばるこどもの育成

【本年度の重点目標】 目標をもって挑戦する自他を認め合い、支え合う子どもの育成

本校の教育目標、めざす子ども像に沿って項目を設定し評価しました。

「まごころで学ぶ」・・・学習面について、自ら学びよく考えて表現し他者と対話する姿

「えがおでふれあう」・・・思いやりをもち互いに認め合い助け合う姿

「ねばりづよくがんばる」・・・心と体を鍛え、根気強くやりぬく姿

	質問項目	教師	児童	保護者
まごころで学ぶ子ども	① 自分の考えを友達に進んで伝えたり、友達の考えを聞いたりして、話し合うこと。	2.33	3.27	2.75
	② 自分の考えやふり返りをノートや学習プリントに書くこと。	2.44	3.30	3.06
	③ 苦手な問題に取り組んだり、自分に合った問題を選んだりして取り組むこと。	2.61	3.22	2.63
	④ 地域の「こと」や「人」と関わる学習で地域のことをよく知り関わろうとすること。	2.33	3.22	1.47
	⑤ 授業は分かりやすく、楽しいこと。	2.89	3.39	3.11
	⑥ 「めあて」を自分でつくったり、見通しをもって考えたりすること。	2.94	3.02	—
	⑦ 道徳の学習で友達の考えを聞きながら、自分のことについて考えること。	2.83	3.37	—
えがおでふれあう子ども	⑧ 友だちのよさを進んで見つけようとする事。	2.33	3.17	3.14
	⑨ 友だちにやさしくしたり、思いやりのある行動をしたりすること。	2.94	3.45	3.21
	⑩ 学校のきまりを守ること。	3.00	3.29	3.26
	⑪ 自分から進んであいさつをすること。	3.06	3.21	2.85
ねばりづよくがんばる子ども	⑫ 学校は楽しいと思うこと。	3.06	3.37	3.38
	⑬ 早寝、早起きして、朝ごはんを食べ、規則正しい生活をする事。	2.78	3.21	3.24
	⑭ 休み時間や体育の学習で進んで体を動かすこと。	2.61	3.37	3.20
	⑮ 「ゆめかなえノート」に自分の目標を立て、がんばること。	2.78	3.39	2.91
	⑯ 係活動や一人一役（5、6年は委員会活動）など、自分にできることをしっかりとすること。	3.17	3.49	3.01

・保護者は⑥、⑦の質問はなし

・保護者は各児童について回答 回答率57%

考察

【まごころで学ぶ子ども】

- ①「自分の考えを友達に進んで伝えたり、友達の考えを聞いたりして、話し合うこと」、②「自分の考えやふり返りをノートや学習プリントに書くこと」は、一昨年から重点をおいて取り組んでいることです。毎時間、自分の考えを表現し交流し合うことで考えを深め、児童の表現力、思考力を高めたいと考えています。授業の終わりには何を学んだか振り返り、学習内容についての自分の考えを書き表す時間を設定するようにしています。この学習の流れをつくることで、児童は課題意識をもってより高い意欲で学習に臨み、そして、学んだ満足感や達成感をもつことができると考えています。教師は、このための場は設定しているものの、もっと児童同士で話し合いが続いたり、考えを書いたりできるようしていくような工夫が必要であると考えているようで、評価は3に届いていません。一方、児童は3以上の評価であることから、学び方として定着しつつあると思われます。
- ③「苦手な問題に取り組んだり、自分に合った問題を選んだりして取り組むこと」については、児童が自身の実態を把握し、自分にあった学習を選ぶことの取組を進めています。今年度3年生は夏休みの宿題冊子を全員同じものではなく、特徴の違う2種類から選ぶようにしました。このような場面をさらに設定したいと考えています。
- ④「地域の『こと』や『人』と関わる学習で地域のことをよく知り関わろうとすること」は、教師には、「地域と連携しながら、人や郷土への関わりをもたせる学習を充実した」か、と問うています。地域に関連する学習は様々あり、知識を伝えたり、体験の場を作ったりするなどして関わっていただいておりますが、どのような連携ができるのかをまだまだ模索しています。児童が地域のことを知って、自分たちからも地域へ向けて発信できるようになることを目指しています。さらに取り組むことが必要なこと、保護者には、この様子が把握できにくいとの意見があり、そのことによって評価の値が低いと思われます。
- ⑤「授業は分かりやすく、楽しいこと」、⑥「『めあて』を自分でつくったり、見通しをもって考えたりすること」は、教師の授業改善に係る項目です。今後さらに、研鑽を積んでいきます。
- ⑦について、今年度は、校内研究で道徳科において「自己の生き方を共に高め合う子どもが育つよう」取り組んでいます。校内で授業を参観し協議しています。教師は積極的に取り組んでおり、児童も様々な生き方を考えることができていると感じているようです。

【えがおでふれあう子ども】

- 学級や学年での活動だけでなく、遠足や掃除、遊びなどで異学年と関わる活動場面をつくり、多くの人に触れよりよく接することができるよう、仕組んでいます。⑧に係っては、道徳科で自分のよさ、友達のよさについて見つめる時間があります。⑨に係っては、人権教育の視点で授業を行ったり、学級経営をしたりしています。ここの4つの項目については、特に、あらゆる場面で児童に向き合うことが大切だと考えています。今後も、様々な場面で相手を思いやり接していく態度、学級の支持的風土の醸成を目指していきます。

【ねばりづよくがんばる子ども】

- ⑫「学校は楽しい」と思えるよう、様々に支援をしています。ここには保護者の皆様も同じように高く評価されていました。心も体も健康に育つための取組は、学校だけでできることではなく家庭生活との関わりも大きいものです。学校が楽しいと思えるような環境づくり、生活習慣作りにはこれからもぜひ、連携して児童に関わっていきたいと考えています。

【全体考察】

- 教師の自己評価に対し、児童の評価は概ねそれを上回っており、取り組んでいることの成果は出ていると考えます。後期もさらに学級だけでなく、学年、全学年で、児童が目指す姿に成長するよう教育活動を進めていきます。特に、児童が自分を見つめ目標を明確にできるようにすること（考える、選択する）、話し合い活動を充実させること（自他を認め合う、学ぶことを楽しむ）を大切にして目標に向かいます。
- 学校での様子、学習の様子はもっと保護者に伝わるよう通信等の工夫について検討します。